

## 土木工事の遅速

杉 戸 清\*



このたび土木学会通常総会および年次学術講演会が当名古屋市中で開催されたことは、地元として誠に光栄であり、心から歓迎いたします。私も土木学会員の一人で、従来から皆様方いろいろなと御厄介になっておりま

したが、最近純土木工学とは多少縁が遠くなって、そのほうの専門的なことに、いろいろと頭を突っ込むことが少なくなっており、この点喜んでよいか、悲しんでよいかよくわかりませんが、とにかく今度当地で総会が開かれ、多くの方に名古屋に来て頂いたことは、名古屋市としてまことにありがたいことである。いろいろの施設を御覧頂けることと思うが、時間の許すかぎり十分に御視察頂いて、なにかと御批判を賜われれば幸甚である。なお先ほども支部長さんからお話のあったように、ご接待の万端について、係りの方ではいろいろと一生懸命にやっておられることと思うが、何かと不行届の点も多いのでお許しを願いたいと思う。

さて私は、記念講演で、何かお話をしろということであるが、何を一体お話ししたらよいか、お話の内容があまり土木から離れてしまってもおかしいので、あれこれと考えたが、十分にゆかず、それに時間も少ししかないのです、到底まとまった話もできないと思う。なお今午かがっていると、沼田先生が熱弁をふるわれて相当詳細にお話になっておられたから、私からなにもつけ加えることはないと思うが、ただこの標題に掲げてあるような「土木工事の遅速」ということについて、少しく所感を述べてみたいと思う。

いうまでもなく土木工事にはいろいろあるが、目的あるいは用途、そういうことからそれを分けると、道路、河川、鉄道、砂防、港湾、水力あるいは都市計画、上下水道といったことにわかれてくると思う。今いったのも一つのわけ方であるが、さらに学問的とかあるいは材料というような面からのわけ方もあると思う。材料から分けると、鉄とか土、水、木、岩石などいろいろあるが、また施工する方法という面からのわけ方もあるし、また大きくわけて、固体と液体というわけ方もある。

いずれにしてもわれわれが関係している土木工事は、国の消長というか、一つの県あるいは市の消長に非常に大きな影響をもっていることはいうまでもない。最近あるところで聞いたことであるが、貿易の自由化とか、所得倍増ということがやかましくいわれているが、われわれの仕事と一体どういう関係になるのか。これを詮じ詰めると、結局は道路を立派にすることではないかというところに話が落ちついてしまったのである。このような見方も一つの見方であるように思う。貿易の自由化に対処するためには、やはり道路をぜひとも立派にして、四通八達しなければならぬ。また所得倍増についても、そのことが一番の基幹になっている。それが達成できなければ、どうしても自由化に対処したり、所得倍増をすることができないというのである。そのように非常に大きく、政治経済の上に影響をもっているのが、われわれの携っている土木工事である。

先ほどもいったように用途使用から考えた土木の工事、そのなかでも水力電気、この水力電気の開発は、従来は大体民間で施行されているが、道路、河川、上下水道、港、都市計画そういったようなものは、ほとんどいづれも国あるいは府県、市町村、このような団体が計画し施工するというのは、世界各国大体同じようであると思う。

そこで水力の施工などとは非常に趣が違って、いわゆるお役所仕事で、きわめてスローモーションで「日暮れ腹くれ」ということがなきにしもあらずであると思われる。

土木工事の速い遅いという問題は二つにわかれると思う。一つは工事それ自身の施工期間、それをどう早くするか、遅くするかという問題、例えば東海道の新幹線をやる場合、これを3年でやるか、5年でやるか、あるいはもう少し縮めるかという工事期間をどうするかという問題、小さく考えれば道路の舗装工事のような一小部分の工事を、いつ着手していつ終るかという施工期間の問題がある。

町を歩いてみると、国あるいは府県市町村でやっている公共事業はきわめて遅いものがある、極言すればなっていないということがいえる。例えば道路の舗装工事一つをみても、いろいろな車が通るが、そんな車がどの

\* 正員 工博 名古屋市長

ように難儀をしていようと、市民が難儀をしようとい方向お構いなしに、朝から晩までのりくりとやっているのが従来の状況ではなかろうかと考えられる節がある。もちろんそうでない場合もあるが、そのような状況の施工期間でやっているのが、きわめて普通の例として目に浮ぶのである。そういうことが市民一般から怨嗟的となり、一体何をやっているのか、月給だけ貰って、のんびんだらりと仕事をやって、市民の迷惑は一向にかまわない。一体どうなんだという非難になるのである。工事をやっているものは、皆それぞれの理由があって、そのような非難に対する弁解もあろうかと思うが、迷惑をうける市民から見ると、そんな弁解は問題にならない。一体何をしているんだということになって、いつも非難が集まる。夜間だけやって昼間は交通を通すということができないのか。そのような顧慮が一向に払らわれなくて、金があるだけ、人が備えるだけ、少しづつやってゆくとようなことが見られるのではないか。これは大いに反省を要することだと思う。

そのようにのんびんだらりとやって、長い期間をかけて仕事をする、ややともするとその間にかけた投下資本が非常に大きなものになって、一向に生きて使われまいということになる。

民間の仕事であれば到底許しておけないことが、一向に平気で行なわれているのではないか。大いに反省を要するところであろうと思う。あまり長くやっていると5年計画とか10年計画でやっていたものが、なかなかその通りにできないので、初めの計画それ自身が御破算になってしまって、またさらに5年とか10年とかと計画を立て直すことになる。あほらしいことを、いつまでくり返しているのか、と非難されることがなきにしもあらずと思われる。

さらにまた日本でよく眼につくのは道路の補修工事である。どこに行ってもそれが眼につく。外国では恐らくこういうことは眼につかない。先日もある新聞社の編集局長と話したら、東京都のなかで、旧東京都でもよいが、もし道路の補修工事をしていない日があったら号外を出してやるというのである。それほどどこかで何かをやっている。名古屋でもそうだと思う。もし名古屋市内で道路の補修工事をしていない日があったら、号外を出してもよい。このことは、号外を出すほどのニュースになるとこいわれたのであるが、もっともだと思った。外国を歩いていると、ほとんどそういうことは眼につかない。その点は非常に違っていると感ぜられる。

今いったようなことは、工事期間に対するそれをどう迷惑を少なくし、経済的に早くやるかということに対するわれわれの関心が多少薄いということをついでであるが、さらに次の問題、すなわち工事それ自身をいつやるか、その早い遅いという問題がある。例えば今進

行中の名古屋から神戸に至る弾丸道路、この仕事は昨年からはじめて、38年度か39年度に終る計画のもとに進んでいるが、それが38年度に終るとい、この終り方がよいのか、あるいは32、33年ごろに始めて35年から36年に終った方がよくなったのか、あるいはもう少し後に着工して、40年ごろに竣工した方がよいか、工事自体をいつやるかの問題、この問題が一番大きな問題になるのである。こういうことに対しては関心が薄いように思う。もちろん関心はあるが、それがなかなかできないのである。

昨日朝の9時半ごろ飛行機で東京に行ったが昨今はだんだんと飛行機がよくなって、今まで乗ったうちで一番早く、39分で羽田に着いた。羽田に着いてから国会に行く用事がある、そこまで行くのになんと実に1時間半もかかったのである。無茶苦茶である。「1寸刻み5分だめし」という言葉があるが、何をやっていることか。39分で名古屋から行ったものが、羽田から国会まで1時間半もかかる。今朝も飛行機で東京から帰ったが、42～43分で着いたのだが、宿舎から羽田に行くまでに、やはり相当の時間がかかる。一体あのままどうして今まで放っておいたのか。たしかそれに対する専用道路かなんかの計画は着々進行しているようであるが、あまなでなるまでに、なんでこれを放っておいたのか。一体なにをやっていたか、今ごろまで涼しい顔しているのがどうしてもわからないのである。その間における毎日毎日の自動車と油のロス、人間の時間のロスはばく大なものである。

おくれるために失っている金は一体どのくらいか。そういうこと一向に考慮が払われていないという気がしてならないのである。

工事自体をいつやるか、今やるがよいか、3年先きがよいか、このような問題は今やった場合の資金の問題、利子の問題、何年後にやった場合の土地買収費、家屋移転費のだんだんむつかしくなる問題、あるいはその工事を何年後にやったために、その間に国民が非常な不便を受ける、その不便を受けた金はどうなるかという経済問題、そういう問題がどうもわれわれには少しく等閑にされているのではない、こう思われるのである。

このような不平や悪口ばかりをいってまことに申しわけないが、結論的にいうと、われわれはそういうことの考慮にどうも関心が薄いとか等閑にしておりはしないかと思う。市民が困ろうが、国民が困ろうが、俺は俺でやっているというので仕事をやっているために、極言すると土木屋は一般の国民から、どうも視野が狭いと馬鹿にされてしまう。そしてそういうことに達観できようような別の人が、土木屋を牛耳るような形になっても仕方がないのであって、これは当然の帰結であると思う。だからそういうような全般を眺め渡した経済問題、例えば道

路一本にしても、今つくらずに3年先きにつくったかどうか、金はどうなるか、工事費なんかや、土地の買収費がどうむつかしくなるか、その間における車や時間のロスはどうなるかというような全体を眺め渡して、その工事はいつからやったら一番よいか、いつやると決めたら何カ月でやったら一番よいかというような問題について、もう少し眼を広くもって、全部のものを眺め渡して、十分検討していかないといかんのではないか、こう私は思うのである。そういうことがおざりになると、われわれはいつも後手を踏んで馬鹿にされるばかりである。このようなことが結論的にいわれるのでないかと思う。

現在の日本の状況をみていると、戦後15年たっておのおのの家には、テレビあり、電気洗濯機あり、冷蔵庫あり、そのほか年々時間に余裕ができて、生活の改善が行なわれて来たことは、皆さんも御存じのことであると思う。そうゆうようにわれわれの生活は、数年間非常に向上してきたことは事実であるが、さてそれでは道路、河、水洗便所は一体どう改善されたか、恐らくお粗末なものである。われわれが一体そういうものに使う金はどうなったか、自分の家に使う金は立派に使うが、公共的に使う金はさっぱり少ない。どこかにアンバランスがあるということが痛切に感じとれるのである。どこかおかしいではないか。こういうことにもわれわれはもう少し、その現状を十分に眺めて、バランスのとれた形にしていかないかんではないかと思う。東京のことばかりいって恐縮であるが、名古屋もあまり自慢はできないので、大きなことも言えないが、とにかくあのような東

京の状況がよいとは誰もいわない。あれでは大きな計画性のない村落の集まりだというわけであるが、一方都民の生活は年々向上し、洋服、靴、洗濯機など相当金をかけている。それが道路、水洗便所には一向に金がかかっていない。どこかにバランスがとれておらんところがある。それをなくすには前にもいった土木工事、これは一国の政治、経済に大きな影響をもっているだけに、その遅速については、もう少し眼を大きく広くもって判断してゆけば、絶対にそれが得策であり、必要であるということになれば、それを阻むものは、世間に何もものもないと思う。そういう考慮が十分にされていないために「そんなこといったって君まだその工事は早いよ」と簡単に蹴とばされてしまうというのが、今までの状況ではないかと思う。われわれはもう少し視野を広くもって、国民生活との間にバランスのとれた形に行きたいと思うのである。

どうも取りとめのないことばかりいって恐縮だが、時間も非常に短かくて十分にお話することのできないのを残念に思う。どうか名古屋にお出で下さった機会に、重ねていうが、十分に名古屋を御覧頂いて、そして御批判を賜りたいと思うとともに、お出で頂いた皆さん方の御厚意に対して、十分に御歓迎できなくて、いろいろと手落ちもあったことと思ひ、ここに心からお詫び申し上げて私の特別講演を終了させて頂く。御静聴を感謝します。

(1961年5月27日、名工大において講演)

## 書 評

### 建設機械化

#### 日本生産性本部刊

日本生産性本部が編成、派遣した海外視察団の報告をまとめた“建設機械化”と題する本が刊行された。官庁、建設業、機械メーカーに所属される12名の専門家が、アメリカの建設機械の状況を、種々な角度から調査された結果が収録されている。内容は1. アメリカの建設工事の概観、2. Bureau of Public Roads およびその工事、3. 道路補修工事の機械化の実態、4. 機械の損料、5. オペレーターの問題、6. 機械施工に関する調査研究、7. 建設工事における災害防止、8. 見学した工事現場の例、9. アメリカにおける建設機械の新発

展、10. 最近の建設機械の傾向、11. 建設機械工場の概況、12. ディーラーの概況、13. トラクター性能試験、14. 日本における機械化の進むべき方向、よりになっている。特に7, 8, 9, 11, 14章は、この部門の関係者にとって興味のある問題であろう。第9章の具体的な例を拾ってみると、トラクターに装着したリッパが、以前は発破をかけていた軟岩を破碎しうるまでに発達したり、土運搬ではブルドーザーに代って、モータースクレーパーが主役となってきたこと、盛土転圧用に各種のローラーが改良使用されるようになったことがある。

短期間の視察であったために、無理からぬことであろうがもう少し詳細な記述と批評があって欲しい、と思われる箇所も見受けられるが、鋭い観察で多くを学ばれ体得された成果は、十分盛り込まれているといえよう。従来、この分野での海外情勢の紹介は少かったが本書によりアメリカの建設工事とその機械化の現状を知り、今後の努力目標に対して、貴重な示唆を得られるものと思う。一読をおすすめしたい。

体裁：B5判 228 ページ、定価700円、  
昭 36. 3. 10 発行。

日本生産性本部：東京都中央区銀座5-3  
TEL (571) 7701 (代)、振替東京 65733

【日本国土開発KK 林 茂樹・記】